

根釧における農業後継者及び新規参入者に対する調査結果
(酪農への新規就農・就業等に関する調査報告書)

平成28年4月

北海道釧路総合振興局
北海道根室振興局

目 次

はじめに	1
第1 調査の概要	1
1 調査対象者	
(1) 農業後継者等	
(2) 農外等からの新規参入者	
2 調査回答者数	
第2 調査結果	2
1 回答者の属性等	
(1) 年齢構成	
(2) 経営規模	
2 農業後継者等の状況	4
(1) 就農状況	
【未就農者】	
(2) 現在の職業等	
(3) 実家の農作業の手伝いと将来の就農希望	
(4) 就農を希望する理由	
(5) 就農しない理由	
【就農者】	
(6) 就農前の職業等	
(7) 就農した理由	
(8) 農業技術の習得先	
(9) 実際に受けた研修と有益と思われる研修	
(10) 現在の経営状況	
(11) 就農前と現在の収入や休み等の比較	
(12) 酪農家になってよかったか	
(13) 今後の経営方向	
【未就農者・就農者】	
(14) 農業後継者が増加するための課題	
(15) 農業後継者の増加のための意見	
3 農外からの新規参入者の状況	15
(1) 出身地	
(2) 就農前の職業等	
(3) 就農した理由	
(4) 就農までの道のり	
(5) 就農場所と当初希望場所	
(6) 今の場所に就農を決めた理由	
(7) 就農にあたっての情報源	
(8) 就農するにあたって苦労したこと	
(9) 就農する際に困ったこと	
(10) 農業技術の習得先	
(11) 実際に受けた研修と有益と思われる研修	
(12) 就農時に要した費用	
(13) 現在の経営状況	
(14) 就農前と現在の収入や休み等の比較	
(15) 酪農家になってよかったか	
(16) 今後の経営方向	
(17) 新規参入者が増加するための課題	
(18) 新規参入者の増加のための意見	
【参考】酪農への新規就農・就業等に関する実態調査(担い手アンケート)要領	30

はじめに

根釧地域では豊富な草地基盤を背景に、家族経営を中心とした大規模な酪農(草地型酪農)が発達し、管内の生乳生産量は全国の約2割を占めるなど、我が国最大の生乳生産地帯となっている。

しかし、当地域も農業者の高齢化や後継者不足などから農家戸数の減少が進み、安定的な生乳生産や農村地域の維持に支障をきたすことが懸念されるなど、将来の担い手の確保が喫緊の課題となっている。

このことから、平成27年2月に策定された「根釧酪農ビジョン」では、「担い手の育成確保」を施策の柱の1つとし、地域が一体となって対策を実施しているところである。

こうした取組の一環として、担い手の育成確保を促進するための具体的方策の検討を進めていくため、北海道釧路総合振興局と根室振興局では、平成27年11月から28年1月にかけて、農業後継者及び農外からの新規参入者等の現状及び意向等を把握するためのアンケート調査を実施することとし、管内各JAの協力を得て配付・回収を行い、その結果を取りまとめた。

第1 調査の概要

1 調査対象者

(1) 農業後継者等

農家子弟等であって、15歳以上で就農していない者及び就農後(経営移譲前)おおむね10年以内の者

(2) 新規参入者

農外から、おおむね10年以内に新規就農・就業した者(研修生含む)

※新規就農とは、自営独立又は法人構成員として就農する場合

※新規就業とは、農業法人(構成員の場合を除く)・酪農ヘルパー又は研修生として就農する場合

2 調査回答者数

(1) 農業後継者等

121名 [釧路 46名、根室 75名]

(調査票配付数 374 : 回収率 32%)

(2) 新規参入者

53名 [釧路 11名、根室 42名]

(調査票配付数 107 : 回収率 50%)

第2 調査結果

1 回答者の属性等

(1) 年齢構成

回答者の年齢構成は、農業後継者等では「20～30代」が中心であり、「30代以上」が過半を超えている。

新規参入者は、大部分が「30代から40代」と、転職者が多いこと(3-(2))や研修に一定の期間を要すること(3-(4))などもあり、後継者に比べやや年齢が高い傾向となっていると考えられる。

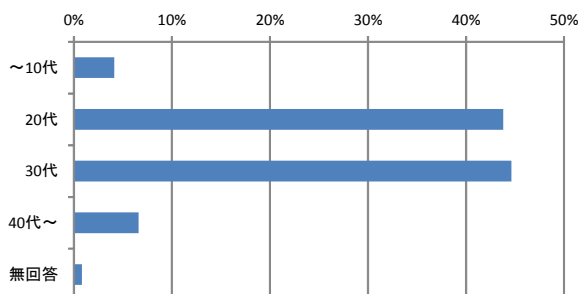
表1 年齢構成（農業後継者等）

	釧路	根室	計	割合
～10代	0	5	5	4%
20代	20	33	53	44%
30代	24	30	54	45%
40代～	1	7	8	7%
無回答	1	0	1	1%
計	46	75	121	

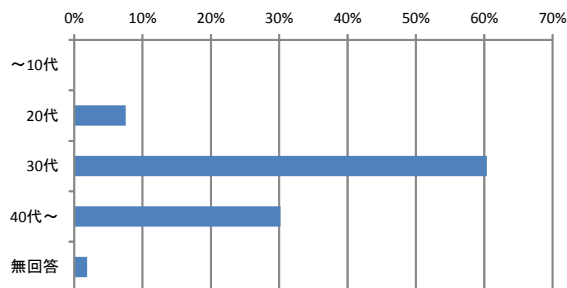
表2 年齢構成（新規参入者）

	釧路	根室	計	割合
～10代	0	0	0	0%
20代	1	3	4	8%
30代	5	27	32	60%
40代～	5	11	16	30%
無回答	0	1	1	2%
計	11	42	53	

年齢構成（農業後継者等）



年齢構成（新規参入者）



(2) 経営規模

① 農地面積

農地面積は、農業後継者等で平均81.3ha、新規参入者で平均56.1haであり、親等からの経営継承となる農業後継者等に比べ、新規参入者では約7割の規模である。

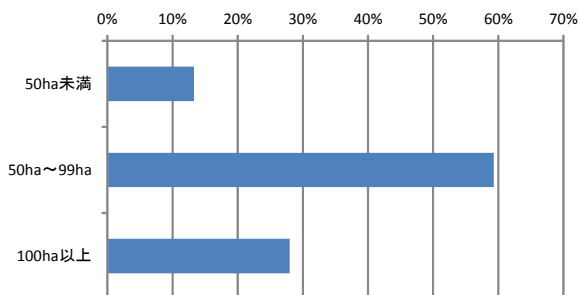
表3 農地面積（農業後継者等）

	釧路	根室	計	割合
50ha未満	8	7	15	13%
50ha～99ha	28	39	67	59%
100ha以上	7	24	31	28%
平均経営面積	72.1	87.1	81.3	

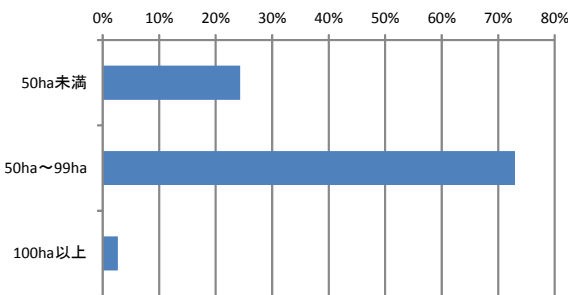
表4 農地面積（新規参入者）

	釧路	根室	計	割合
50ha未満	4	5	9	24%
50ha～99ha	7	20	27	73%
100ha以上	0	1	1	3%
平均経営面積	50.3	58.6	56.1	

農地面積（農業後継者等）



農地面積（新規参入者）



② 搾乳頭数

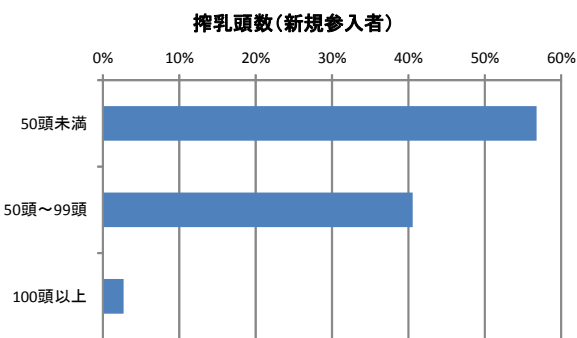
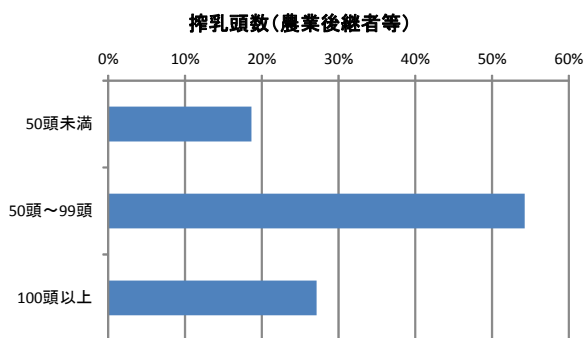
搾乳頭数は、農業後継者等で平均82.5頭、新規参入者で平均51.7頭と、約30頭の差となっている。これは酪農を始める際、親の経営基盤をある程度引き継ぐことができる農業後継者に対し、新規参入者は初期投資のみならず、労働力やノウハウなどの経営基盤も持たない状態からのスタートとなっていることも要因として考えられる。

表5 搾乳頭数(農業後継者等)

	釧路	根室	計	割合
50頭未満	9	13	22	19%
50頭～99頭	25	39	64	54%
100頭以上	10	22	32	27%
平均搾乳頭数	84.8	81.1	82.5	

表6 搾乳頭数(新規参入者)

	釧路	根室	計	割合
50頭未満	7	14	21	57%
50頭～99頭	4	11	15	41%
100頭以上	0	1	1	3%
平均搾乳頭数	50.7	52.2	51.7	



③ 生乳生産量

年間の生乳生産量は、農業後継者等で平均733.4t、新規参入者で平均435.7t となっている。

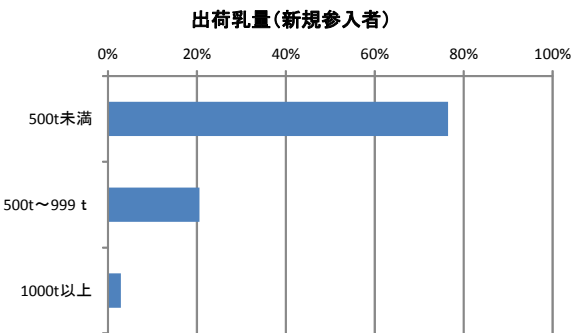
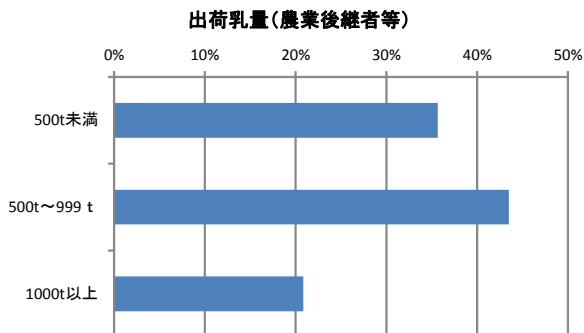
特に新規参入者では500t未満が76%を占め、前述の搾乳頭数の違いと併せ農業後継者と大きな差があった。

表7 出荷乳量(農業後継者等)

	釧路	根室	計	割合
500t未満	18	23	41	36%
500t～999t	17	33	50	43%
1000t以上	8	16	24	21%
平均出荷乳量(t)	716.7	743.3	733.4	

表8 出荷乳量(新規参入者)

	釧路	根室	計	割合
500t未満	7	19	26	76%
500t～999t	3	4	7	21%
1000t以上	0	1	1	3%
平均出荷乳量(t)	407.3	447.5	435.7	



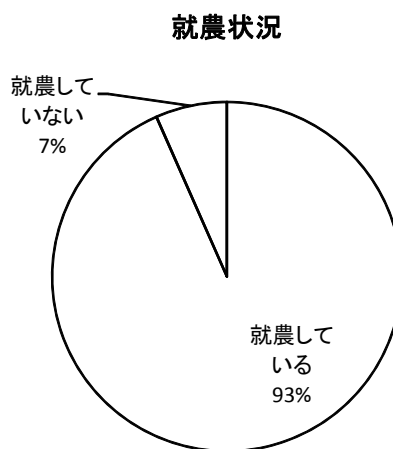
2 農業後継者等の状況

(1) 就農状況

農業後継者等の回答者のうち「就農している(就農者)」が113名、「就農していない(未就農者)」が8名である。

表9 就農状況

	釧路	根室	計	割合
就農している	42	71	113	93%
就農していない	4	4	8	7%
無回答	0	0	0	0%



【未就農者】

(2) 現在の職業等

現在の職業等は「学生」が6名、その他は1名、無回答1名である。

(3) 実家の農作業の手伝いと将来の就農希望

未就農者8名のうち実家の農作業を「手伝っている」者は5名、そのうち将来の就農希望者は3名である。実家の農作業を「ほとんど手伝っていない」者は3名おり、その全員が就農する希望がない結果となった。

回答者数が少ないことに留意する必要があるが、実家の農作業を手伝っている者は将来の就農の可能性が高いと思われる。

表10 実家の手伝いと就農希望

	釧路	根室	計	うち就農希望者
毎日	2	2	4	2(ほか未定1)
週数回	0	1	1	1
ほとんど手伝わない	2	1	3	0

(4) 就農を希望する理由

就農を希望する者(3名)の理由は、次のとおりである。上記(3)と同様に回答数が少ないことに留意する必要があるが、「親の勧め」などの回答はなく、全員が自分の意志で就農を希望している。

- ・酪農を継ぐと決めている(2)
- ・農業が好き、自然が好き(1)
- ・やり方次第でもうかる(2)
- ・都会が嫌(1)
- ・サラリーマンに向いていない(2)
- ・なんとなく(1)

※総回答数=10
※()は回答数

(5) 就農しない(未定を含む)理由

就農を希望しない者(4名)の理由は、次のとおりである。

特に「労働時間が長い」は酪農業の実態を反映したものとなっており、将来の就農を妨げる大きな要因と考えられる。

- ・労働時間が長い(3)
- ・配偶者を見つけるのが大変(1)
- ・他にやりたいことがある(2)
- ・将来が不安(1)
- ・農業が嫌(2)
- ・友人、知人が農業を継がない(1)

※総回答数=10
※()は回答数

【 就農者 】

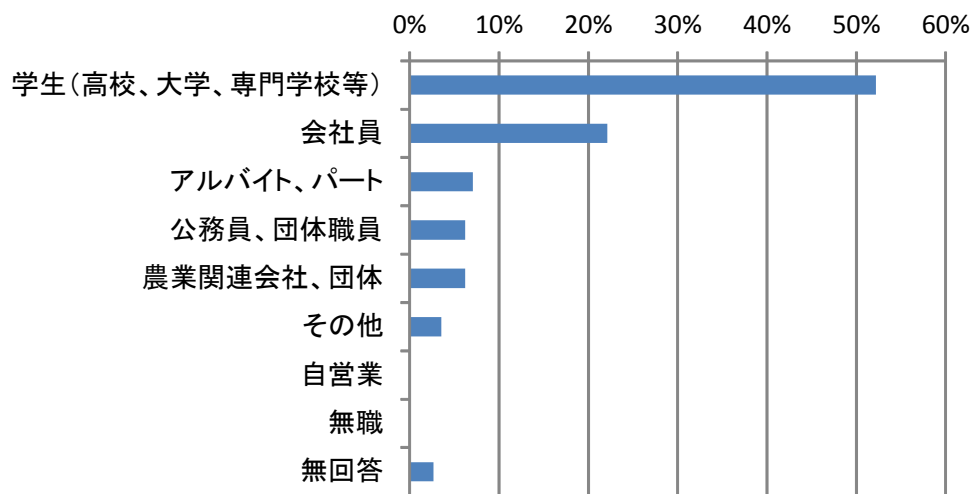
(6) 就農前の職業等

就農者の就農前の職業等は、新規学卒者である「学生」がほぼ半数の52%、「会社員」が22%、その他が「アルバイト、パート」、「公務員、団体職員」、「農業関連会社、団体」などであり、他産業からUターンなどで就農する者も相当数いることを示している。

表13 就農前の職業等

	釧路	根室	計	割合
学生(高校、大学、専門学校等)	23	36	59	52%
会社員	9	16	25	22%
アルバイト、パート	1	7	8	7%
公務員、団体職員	3	4	7	6%
農業関連会社、団体	2	5	7	6%
その他	1	3	4	4%
自営業	0	0	0	0%
無職	0	0	0	0%
無回答	3	0	3	3%

就農前の職業等



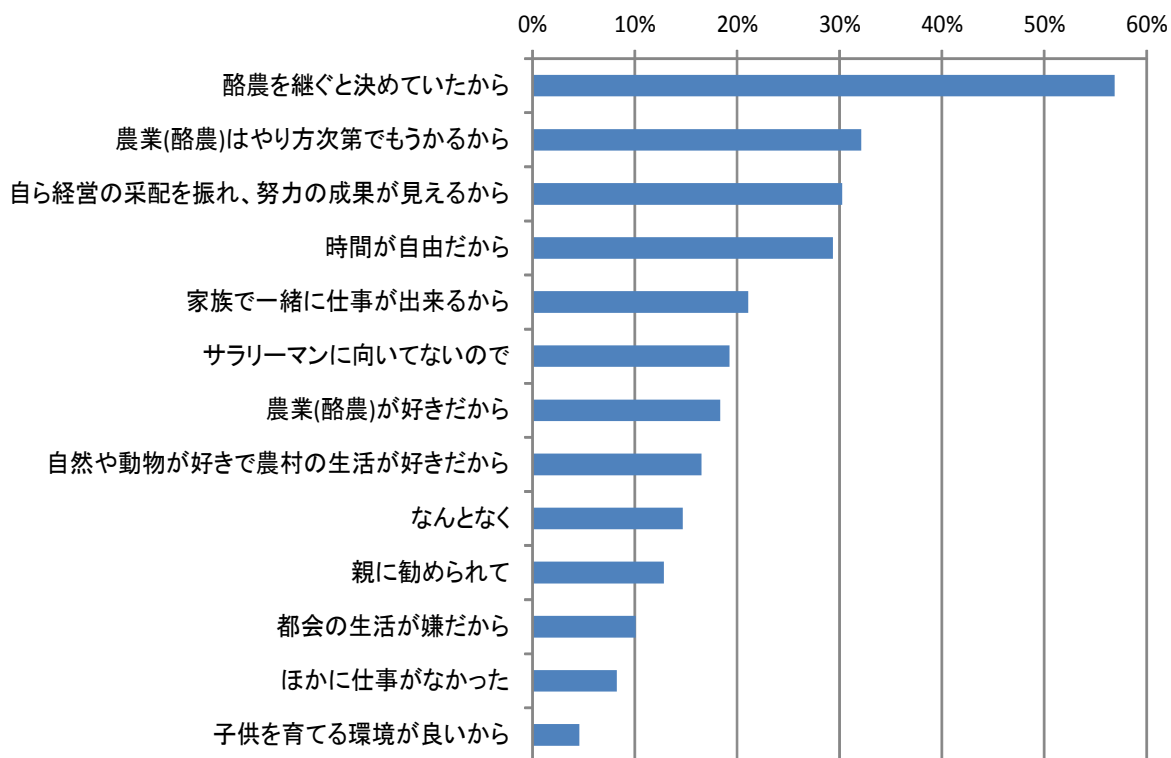
(7) 就農した理由

就農した理由は、「酪農を継ぐと決めていたから」の割合が57%で最も多く、「やり方次第でもうかる」が32%、「自ら採配を振れ努力の成果が見える」が30%と続き、「親の勧め」や「なんとなく」などは10%台と少ないことから、後継者の前向きな意志による就農が多い傾向と考えられる。

表14 就農した理由(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
酪農を継ぐと決めていたから	23	39	62	57%
農業(酪農)はやり方次第でもうかるから	16	19	35	32%
自ら経営の採配を振れ、努力の成果が見えるから	15	18	33	30%
時間が自由だから	9	23	32	29%
家族と一緒に仕事ができるから	7	16	23	21%
サラリーマンに向いてないので	7	14	21	19%
農業(酪農)が好きだから	8	12	20	18%
自然や動物が好きで農村の生活が好きだから	6	12	18	17%
なんとなく	6	10	16	15%
親に勧められて	3	11	14	13%
都会の生活が嫌だから	5	6	11	10%
ほかに仕事なかった	3	6	9	8%
子供を育てる環境が良いから	1	4	5	5%
食物の品質や安全性に興味があった	0	0	0	0%
配偶者・子供に勧められて	0	0	0	0%
その他	0	0	0	0%

就農した理由(複数回答)



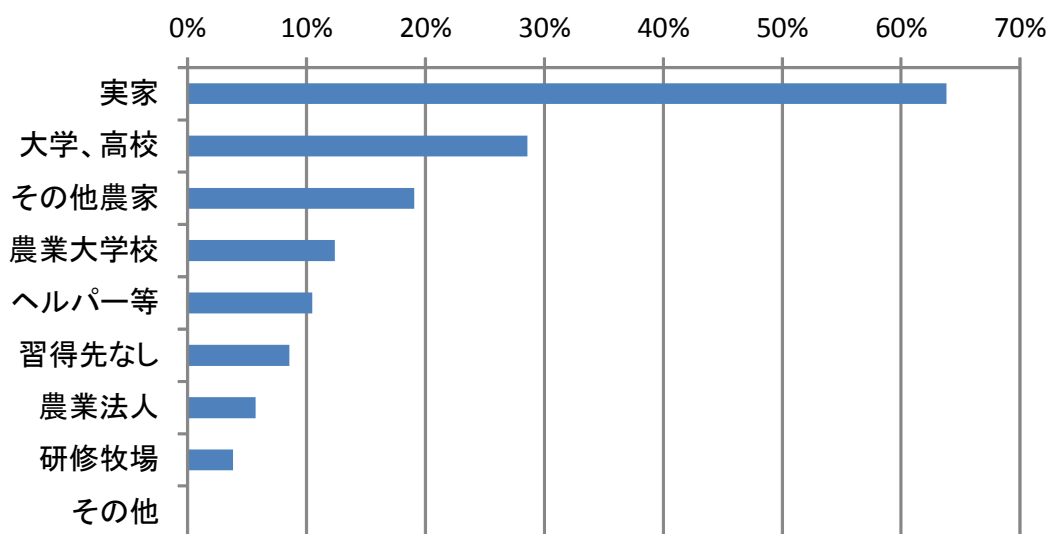
(8) 農業技術の習得先

就農の際に農業技術を習得した先は、「実家」の割合が最も高く64%、次いで「大学、高校」が29%、実家以外の農家での研修を行う「その他農家」が19%であり、実家以外での農業技術の習得は少数であった。

表15 農業技術の習得先(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
実家	26	41	67	64%
大学、高校	9	21	30	29%
その他農家	5	15	20	19%
農業大学校	7	6	13	12%
ヘルパー等	5	6	11	10%
習得先なし	2	7	9	9%
農業法人	2	4	6	6%
研修牧場	2	2	4	4%
その他	0	0	0	0%

農業技術の習得先(複数回答)



(9) 実際に受けた研修と有益と思われる研修

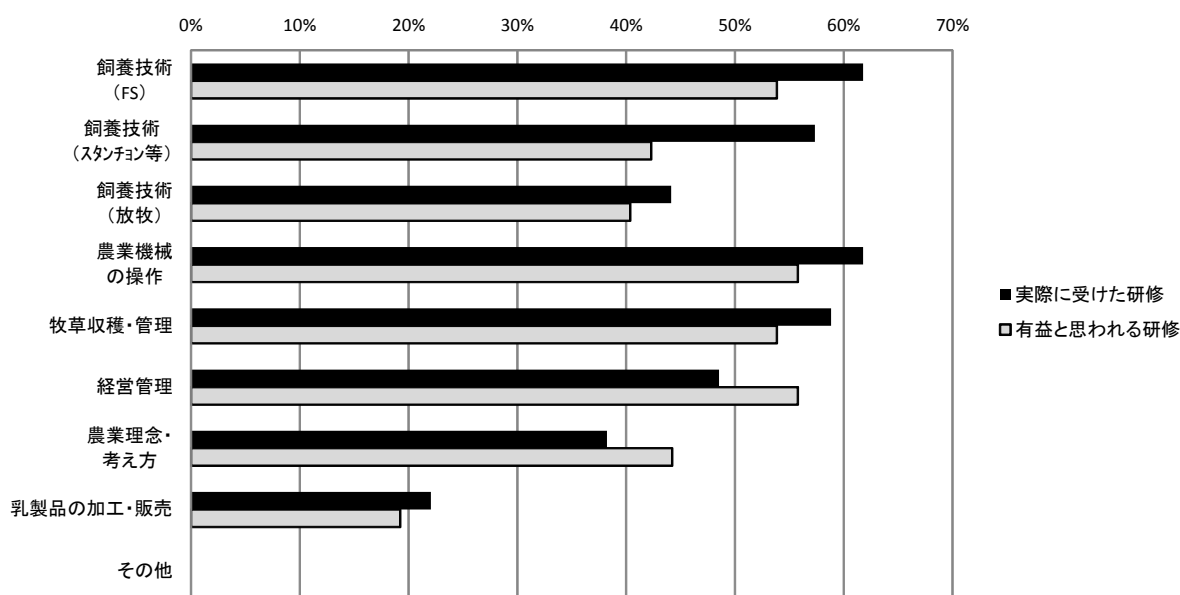
実際に受けた技術習得・研修内容は、FSやスタンション等などの「飼養技術」のほか、「農業機械の操作」「牧草収穫・管理」「経営管理」など酪農の基本的技術が網羅されている。

有益と思われる研修は、「経営管理」や「農業理念・考え方」が実際に受けた研修の中で有益と判断した割合が高い一方で、飼養技術は実際に受けた研修内容より回答数が低い結果となった。

表16 実際に受けた研修と有益と思われる研修(複数回答)

	実際に受けた研修				有益と思われる研修			
	釧路	根室	計	割合	釧路	根室	計	割合
飼養技術(FS)	21	21	42	62%	8	20	28	54%
飼養技術(スタンション等)	13	26	39	57%	3	19	22	42%
飼養技術(放牧)	9	21	30	44%	2	19	21	40%
農業機械の操作	15	27	42	62%	6	23	29	56%
牧草収穫・管理	17	23	40	59%	5	23	28	54%
経営管理	12	21	33	49%	7	22	29	56%
農業理念・考え方	9	17	26	38%	5	18	23	44%
乳製品の加工・販売	3	12	15	22%	3	7	10	19%
その他	0	0	0	0%	0	0	0	0%

実際に受けた研修と有益と思われる研修

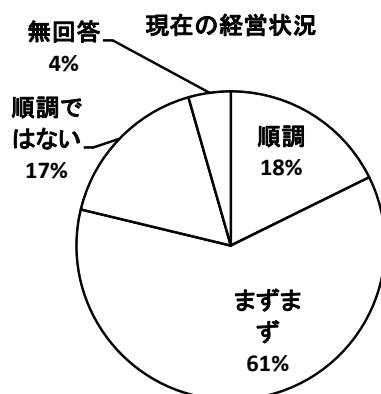


(10) 現在の経営状況

現在の経営状況は、「順調」が18%、「まずまず」が61%であり、総じて良好な経営であるという認識を持っている結果となった。

表17 現在の経営状況

	釧路	根室	計	割合
順調	10	10	20	18%
まずまず	25	44	69	61%
順調ではない	4	15	19	17%
無回答	3	2	5	4%



(11) 就農前と現在の収入や休み等の比較

収入は「増えた」が半数近くの46%、一方、「減った」は17%と少ない。労働時間では過半超えの52%が「増えた」と回答しており、休暇が「減った」は60%であったが、家族との時間が「増えた」は39%であった。

表18-1 収入

	釧路	根室	計	割合
増えた	16	36	52	46%
変わらない	8	18	26	23%
減った	7	12	19	17%
無回答	11	5	16	14%

収入

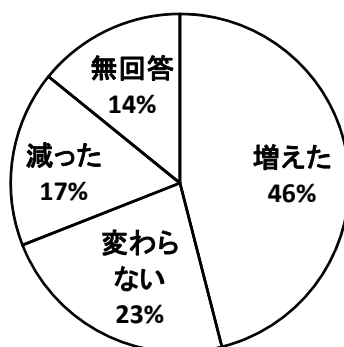


表18-2 労働時間

	釧路	根室	計	割合
増えた	18	41	59	52%
変わらない	12	19	31	28%
減った	2	6	8	7%
無回答	10	5	15	13%

労働時間

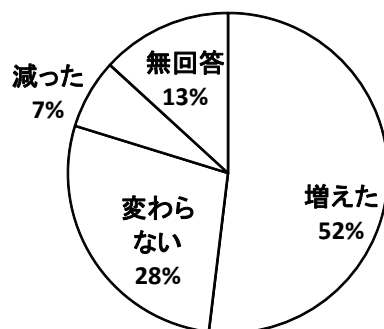


表18-3 休暇

	釧路	根室	計	割合
増えた	1	7	8	7%
変わらない	7	15	22	20%
減った	24	44	68	60%
無回答	10	5	15	13%

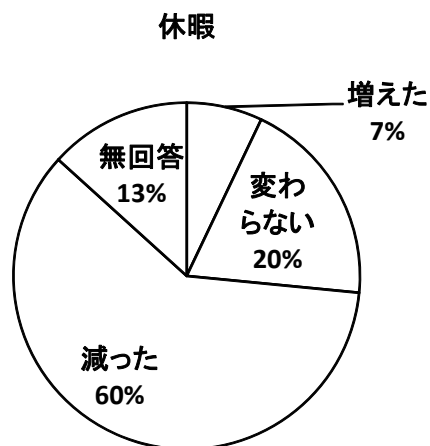
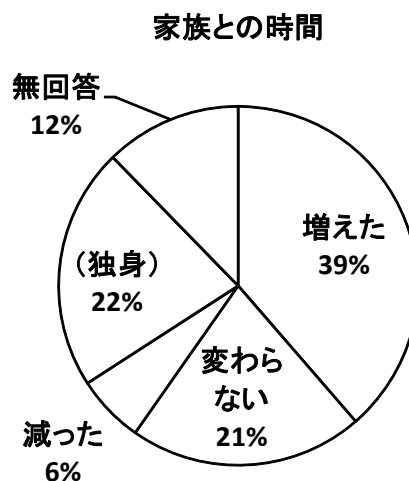


表18-4 家族との時間

	釧路	根室	計	割合
増えた	16	28	44	39%
変わらない	5	19	24	21%
減った	1	6	7	6%
(独身)	11	13	24	22%
無回答	9	5	14	12%

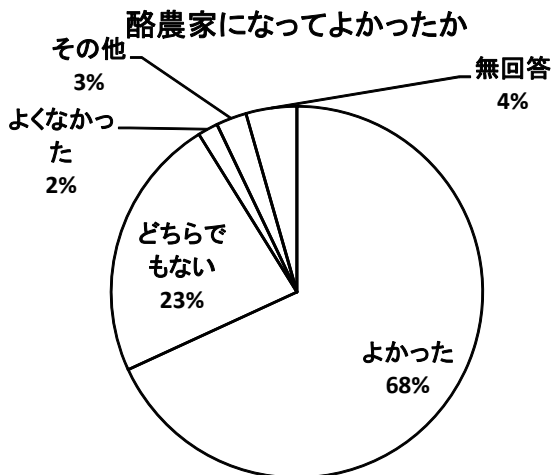


(12) 酪農家になってよかったか

酪農家になって「よかった」と回答した者の割合は68%、「どちらでもない」が23%、「よくなかった」が2%であり、酪農家になったことで満足している者が主流である。

表19 酪農家になってよかったか

	釧路	根室	計	割合
よかった	32	45	77	68%
どちらでもない	8	18	26	23%
よくなかった	0	2	2	2%
その他	1	2	3	3%
無回答	1	4	5	4%



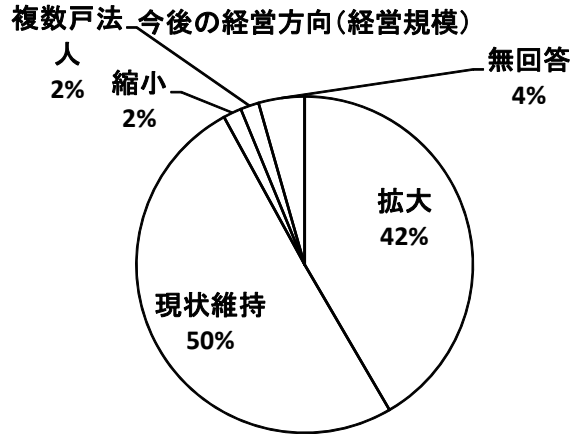
(13) 今後の経営方向

① 経営規模

今後の経営方向のうち経営規模は、「現状維持」が50%、「拡大」は42%であり、「縮小」は2%と僅かであった。

表20 今後の経営方向(経営規模)

	釧路	根室	計	割合
拡大	16	31	47	42%
現状維持	24	33	57	50%
縮小	0	2	2	2%
複数戸法人	1	1	2	2%
無回答	1	4	5	4%

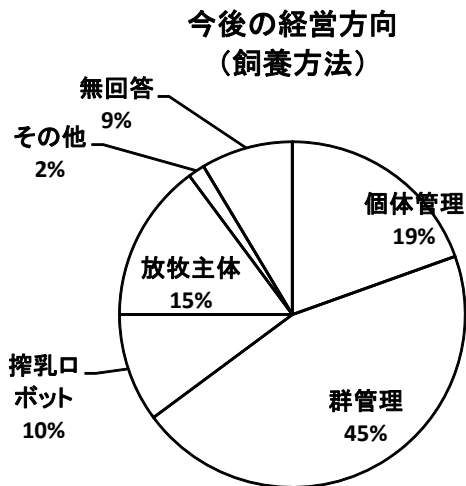


② 飼養方法

今後の経営方向のうち、飼養方法は、「群管理(フリーストール等)」が45%と約半数であり、次いで「個体管理(スタンション等)」の20%、「放牧主体」が15%、「搾乳ロボット」は群管理の範疇と重複するが10%であった。この結果から、飼養頭数の拡大に伴う群管理に加え、その中で搾乳ロボットの導入を志向する者がいる一方で、放牧主体の飼養方法を志向する者もあり、今後の飼養方法には多様な考えがある結果となった。

表21 今後の経営方向(飼養方法)

	釧路	根室	計	割合
個体管理	7	18	25	20%
群管理	19	39	58	45%
搾乳ロボット	4	9	13	10%
放牧主体	10	9	19	15%
その他	1	1	2	2%
無回答	7	4	11	9%



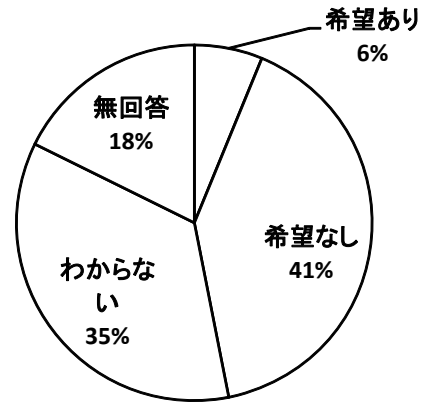
③ 6次産業化

今後の経営方向のうち6次産業化の希望では、「希望なし」が41%、「わからない」が35%、「希望あり」は6%と僅かであった。

表22 今後の経営方向(6次産業化)

	釧路	根室	計	割合
希望あり	0	7	7	6%
希望なし	14	32	46	41%
わからない	19	21	40	35%
無回答	9	11	20	18%

今後の経営方向
(6次産業化)



【未就農者・就農者共通】

(14) 農業後継者が増加するための課題

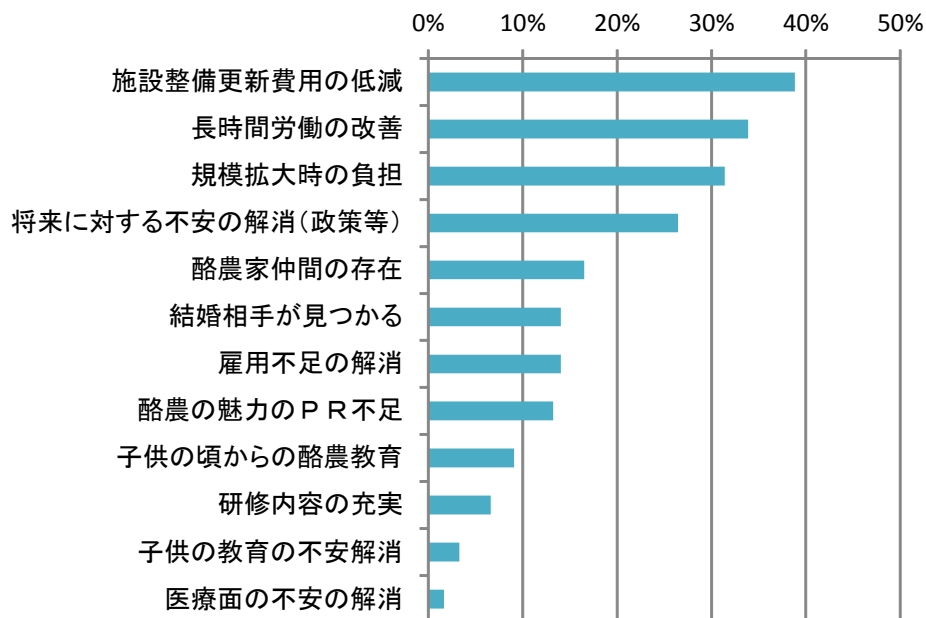
課題と思われる上位3番目までの選択で集計したところ、「施設整備等更新費用低減」が39%、「長時間労働の改善」が34%、「規模拡大時の負担」が31%と、この3項目が30%を超えている一方で、子供の教育・医療面の不安などは、あまり課題として捉えていない傾向が伺われる。

表23 農業後継者が増加するための課題(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
施設整備更新費用の低減	22	25	47	39%
長時間労働の改善	19	22	41	34%
規模拡大時の負担	22	16	38	31%
将来に対する不安の解消(政策等)	15	17	32	26%
酪農家仲間の存在	6	14	20	17%
結婚相手が見つかる	7	10	17	14%
雇用不足の解消	6	11	17	14%
酪農の魅力のPR不足	5	11	16	13%
子供の頃からの酪農教育	3	8	11	9%
研修内容の充実	3	5	8	7%
子供の教育の不安解消	0	4	4	3%
医療面の不安の解消	1	1	2	2%

※上位3番目までの選択数で集計

農業後継者が増加するための課題(複数回答)



- (15) 農業後継者の増加のための意見(自由記載)
農業後継者増加のための自由意見の記載内容は次のとおりである。

酪農の魅力のPR

- ・経営方法の多様性を伝える。
- ・魅力ある農村づくりが大切。
- ・農業環境の充実と整備。
- ・利益を上げられる魅力的な経営を後継者に見せていくことが必要。
- ・酪農が魅力ある職業であることを、まず私たち従事者が楽しく仕事をするのが大切。
- ・農業で成功している人の講演会を大学で行う。
- ・現在の経営者が大変さばかりを全面に出し過ぎていると思う。後継者も根性がなさ過ぎ。

労働環境の改善

- ・臭い、汚い等のイメージを変える。ヘルパーの人員不足解消、酪農家の長期休暇。
- ・労働時間等に対する収益が見合わない。
- ・休暇を取れる政策。
- ・労働条件や福利厚生が希薄。
- ・ヘルパーをもっと入れる。
- ・いろいろな補助、ヘルパーを取りやすく、休みがある。

経営環境の改善

- ・莫大な投資に対する不安の解消。
- ・将来の酪農情勢への不安の解消。
- ・安定的な乳代、エサ代の安定(高止まりはつらい)。
- ・親の負債を軽減して後継者が経営できるようなバックアップ。
- ・こりかたまった農業のやり方や経営者の雇用者、後継者を上手に育てる能力のなさ。
- ・主、後継者を含めた家庭内の人間関係。
- ・農業の質を高める。
- ・労働はもちろん自分が酪農をやっていることに自信を持てる経営や労働をできるようにする。
- ・より専門的知識、技術を持った普及員を増員、育成。

子供の頃からの酪農教育

- ・小さい頃からの酪農への興味、関心をもつことが必要。
- ・4Hクラブを小学生から入会できる新しい組織を作る。
- ・青年部4Hクラブ、乳牛改良同志会等の組織の活用の提案。

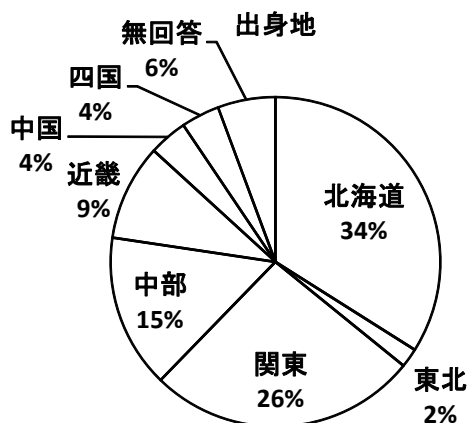
3 農外からの新規参入者の状況

(1) 出身地

農外から新規参入した者の地域別出身地は、北海道が34%で最も多く、次いで関東26%、中部15%の順であった。

表24 出身地

	釧路	根室	計	割合
北海道	3	15	18	34%
東北		1	1	2%
関東	4	10	14	26%
中部	2	6	8	15%
近畿		5	5	9%
中国		2	2	4%
四国	1	1	2	4%
無回答	1	2	3	6%



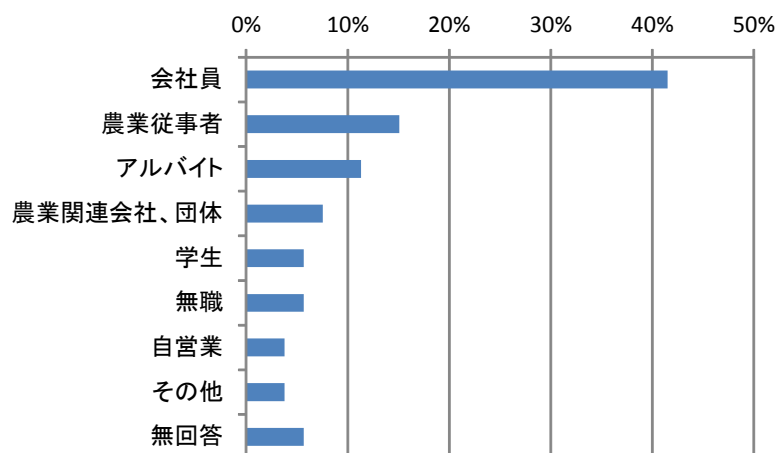
(2) 就農前の職業等

就農・就業する前の職業は、「会社員」が42%と最も多く、次いで「農業従事者」15%、「アルバイト」11%と続き、「学生」から就農するものは少数であった。

表25 就農前の職業等

	釧路	根室	計	割合
会社員	2	20	22	42%
農業従事者	1	7	8	15%
アルバイト	3	3	6	11%
農業関連会社、団体	1	3	4	8%
学生	3	0	3	6%
無職	0	3	3	6%
自営業	1	1	2	4%
その他	0	2	2	4%
無回答	0	3	3	6%

就農前の職業等

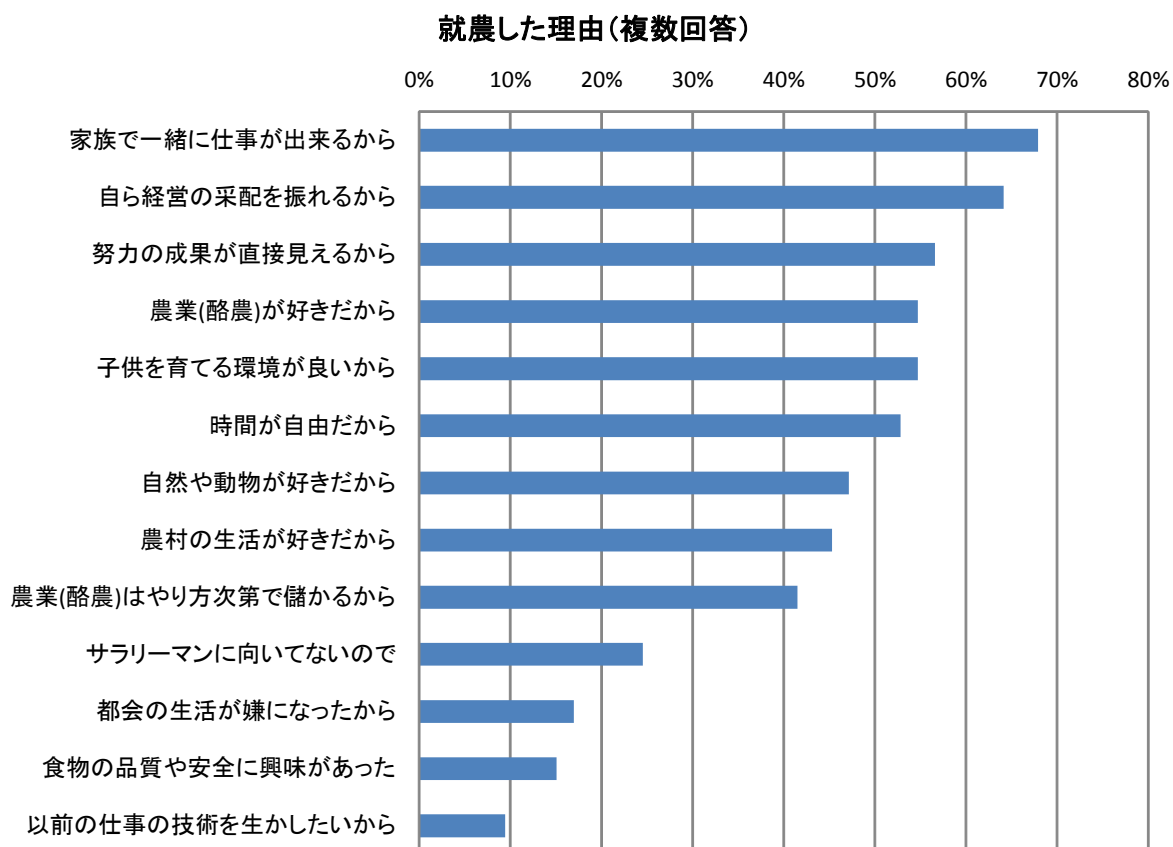


(3) 就農した理由

就農・就業した理由は「家族と一緒に仕事ができる」と回答した割合が最も高く68%、次いで「自ら経営の采配が振れる」64%、「努力の成果が見える」57%と続いた。全体的には、家族とゆとり、やりがいや自然環境など都会では得られないものを求めている傾向があると考えられる。

表26 就農した理由(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
家族と一緒に仕事ができるから	7	29	36	68%
自ら経営の采配を振れるから	8	26	34	64%
努力の成果が直接見えるから	4	26	30	57%
農業(酪農)が好きだから	7	22	29	55%
子供を育てる環境が良いから	5	24	29	55%
時間が自由だから	6	22	28	53%
自然や動物が好きだから	1	24	25	47%
農村の生活が好きだから	4	20	24	45%
農業(酪農)はやり方次第で儲かるから	5	17	22	42%
サラリーマンに向いてないので	0	13	13	25%
都会の生活が嫌になったから	1	8	9	17%
食物の品質や安全に興味があった	2	6	8	15%
以前の仕事の技術を生かしたいから	0	5	5	9%



(4) 就農までの道のり

就農を決意し、実際に研修するまでの平均年数は1.5年、就農決意から研修等を経て実際に移住して就農するまでの平均年数は4年であった。

表27 就農までの道のり(決意から移住までの期間)

	就農決意から 研修するまで	就農決意から実 際に就農するまで
最長期間	8.0	8.0
最短期間	0.0	1.0
平均期間	1.5	4.0

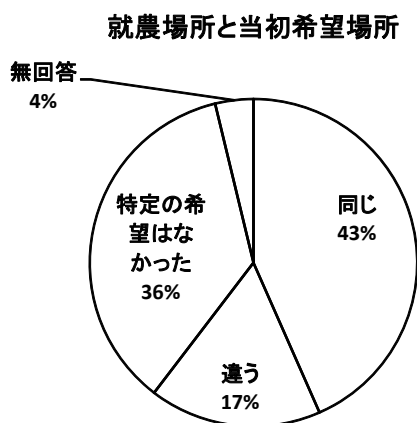
※単位:年

(5) 就農場所と当初希望場所

就農・就業をした場所が当初の希望場所と「同じ」と回答した割合が43%と最も多く、次に「特定の希望はなかった」が36%、「違う」は17%と少数であった。

表28 就農場所と当初希望場所

	釧路	根室	計	割合
同じ	4	19	23	43%
違う	1	8	9	17%
特定の希望はなかった	6	13	19	36%
無回答	0	2	2	4%



- (6) 今の場所に就農を決めた理由(自由記載)
新規参入者が今の場所に就農・就業を決めた理由は次のとおりであった。(意見一部要約)

研修の体制

- ・ 就農者が多く、研修牧場があった。
- ・ 研修牧場があったから。
- ・ 新規就農できる研修牧場があったから。
- ・ 研修体制が整っている。
- ・ 酪農の研修牧場があり、体系的に学んだあと必ず就農できるため。
- ・ 全国一の生乳生産量がある別海町でなら1番の研修ができると思ったため。
- ・ 組織がしっかりしていて担当者の熱意が感じられて、研修に期待が持てたから。
- ・ 研修施設、住宅、保育環境が揃っていた。

地域のバックアップ体制

- ・ 自己資金がなくても、やる気があるならバックアップするからと言われて。
- ・ 土地、人が良かったので。
- ・ 周りの地域の人がよかった。
- ・ 応援してくれる人がいたから。人とのつながりを大事にしたかった。
- ・ 町内会がしっかり運営されている点。

就農する環境・条件

- ・ 既存の施設が状態が良く、就農にあまりお金がかからなそうだった。
- ・ 土地も飛び地などなく、牛舎近くにまとまっていて、作業効率が良さそうだった。
- ・ 生活していく上で、限られた時間の中で行動できる場所、時間などがあっていて。
- ・ 場所が自分の希望する規模に近かったのだ。
- ・ 放牧の飼養形態で営農できた。
- ・ 放牧に向いている地域だと感じられたため。
- ・ 初期費用の低さ。
- ・ 年齢から早く就農できること。
- ・ 自然環境と生活環境。

HP等からのイメージ

- ・ 酪農王国だから。
- ・ HPや伺った話から就業時の1日の流れがイメージできた。
- ・ 酪農の町と聞いてたから。
- ・ HPの内容。

その他

- ・ 選択の余地がなかった。
- ・ 紹介されたから
- ・ 知人がそばにいた。
- ・ 実家から近かったため。
- ・ 酪農も厳しい環境に置かれる中、一番最後まで(日本の中で)生き残れる場所だと思った。
- ・ 空いている牧場が今の場所だけだった。
- ・ 同じ農協に知り合いが何組か新規就農していたから。
- ・ 研修した農家の近くに就農場所があった。

(7) 就農にあたっての情報源

就農・就業するにあたり、各項目ごとの情報源のトップは、「就農場所」がインターネット、「技術の習得」は研修受け入れ先、「農地の確保」、「住宅確保」及び「資金確保」はJAであった。

この結果から就農等の入口である就農場所の情報源となるJAの情報共有化や「インターネット」などの情報の充実が必要と考えられる。

表29-1 就農場所の情報源(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
全国段階の相談窓口	2	6	8	9%
相談窓口	2	7	9	10%
農業改良普及センター	0	1	1	1%
市町村・農業委員会	1	3	4	5%
JA(農協)	6	15	21	24%
研修受け入れ先	1	15	16	18%
一般農家・農業法人	2	1	3	3%
書籍・雑誌	1	1	2	2%
インターネット	4	20	24	27%
その他	0	0	0	0%

就農場所の情報源(複数回答)

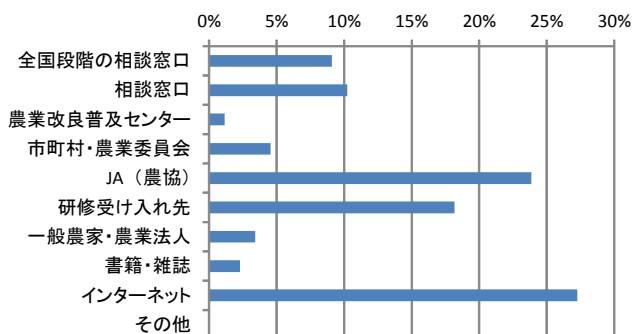


表29-2 技術習得の情報源(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
全国段階の相談窓口	1	0	1	1%
相談窓口	0	0	0	0%
農業改良普及センター	3	8	11	11%
市町村・農業委員会	1	1	2	2%
JA(農協)	4	9	13	13%
研修受け入れ先	5	32	37	36%
一般農家・農業法人	2	13	15	15%
書籍・雑誌	2	9	11	11%
インターネット	2	11	13	13%
その他	0	0	0	0%

技術習得の情報源(複数回答)

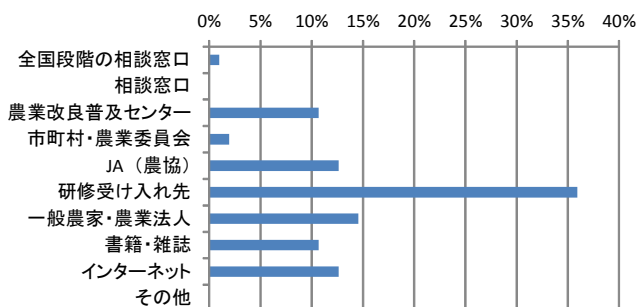


表29-3 農地確保の情報源(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
全国段階の相談窓口	0	0	0	0%
相談窓口	0	1	1	2%
農業改良普及センター	0	2	2	3%
市町村・農業委員会	5	4	9	16%
JA(農協)	9	20	29	50%
研修受け入れ先	0	12	12	21%
一般農家・農業法人	1	0	1	2%
書籍・雑誌	0	0	0	0%
インターネット	1	3	4	7%
その他	0	0	0	0%

農地確保の情報源(複数回答)

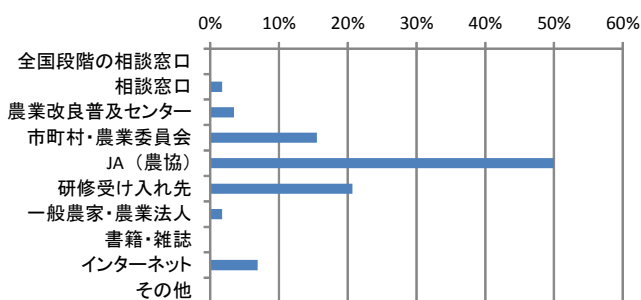


表29-4 住宅確保の情報源(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
全国段階の相談窓口	0	0	0	0%
相談窓口	0	0	0	0%
農業改良普及センター	0	1	1	2%
市町村・農業委員会	0	2	2	4%
JA(農協)	8	21	29	56%
研修受け入れ先	0	14	14	27%
一般農家・農業法人	1	0	1	2%
書籍・雑誌	0	0	0	0%
インターネット	1	3	4	8%
その他	0	1	1	2%

住宅確保の情報源(複数回答)

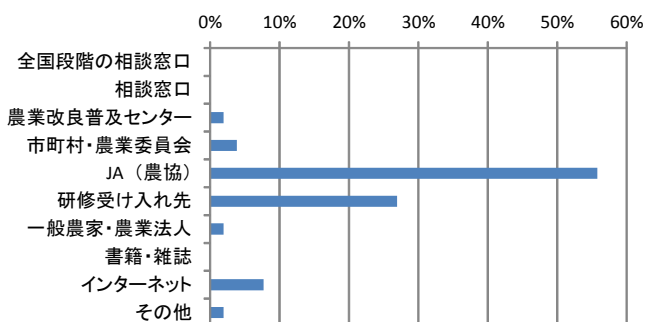
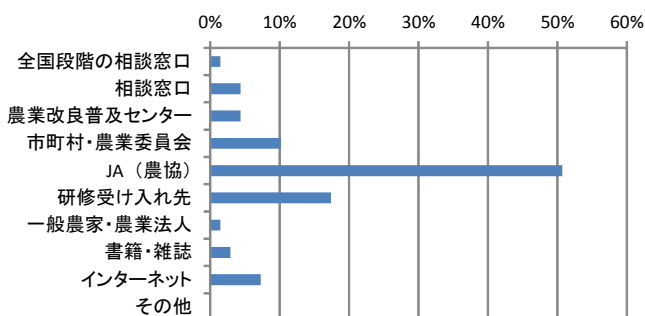


表29-5 資金確保の情報源(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
全国段階の相談窓口	0	1	1	1%
相談窓口	0	3	3	4%
農業改良普及センター	0	3	3	4%
市町村・農業委員会	2	5	7	10%
JA(農協)	9	26	35	51%
研修受け入れ先	0	12	12	17%
一般農家・農業法人	0	1	1	1%
書籍・雑誌	1	1	2	3%
インターネット	0	5	5	7%
その他	0	0	0	0%

資金確保の情報源(複数回答)



(8) 就農するにあたって苦労したこと

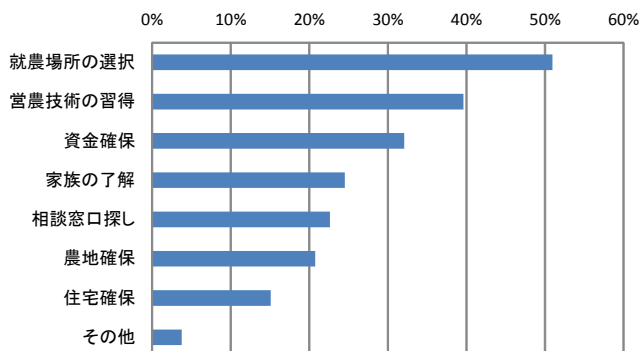
就農・就業するにあたって苦労したことは、「就農場所の選択」が最も多く51%、次いで「営農技術」の習得40%、「資金確保」32%と続く。

このことから、就農可能な場所の情報提供や、技術習得に向けた研修などの充実が必要であると考えられる。

表30 就農するにあたって苦労したこと(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
就農場所の選択	5	22	27	51%
営農技術の習得	3	18	21	40%
資金確保	1	16	17	32%
家族の了解	3	10	13	25%
相談窓口探し	4	8	12	23%
農地確保	3	8	11	21%
住宅確保	2	6	8	15%
その他	0	2	2	4%
無回答	1	4	5	

就農するにあたって苦労したこと



(9) 就農する際に困ったこと(自由記載)

就農・就業する際、特に困ったことは、次のとおり多くの意見があった。
意見の内容は、子育てに関することが多く、新規就農への大きな障害となっている。

住環境

- ・インフラが整っていない(特にインターネット)。
- ・最初は住宅が牧場と離れていたため、移動に時間がかかって不便だった。
- ・就農先がとてもしなくて、4月に入植してから、10月に牛が来るまでひたすら片付けに追われたこと。
- ・離農した前の方の農場の後片付けが大変で、地域の方にも大変助けていただいた。
- ・病院が少ない。
- ・住宅の確保。

家族・子育て

- ・子供が小さかったため、育児と仕事の両立が大変だった。
- ・保育所と小学校が閉校となり、バス通学となったこと。
- ・子育てとの両立。
- ・小さな子供を預ける施設、保育所等が無かったため。
- ・一緒に働いている家族に仕事についてあれこれ言えないこと。

収入面

- ・研修時の給与が安すぎる。
- ・金がなかった。無収入期間が長く、自己資金の切り崩しがつらかった。

その他

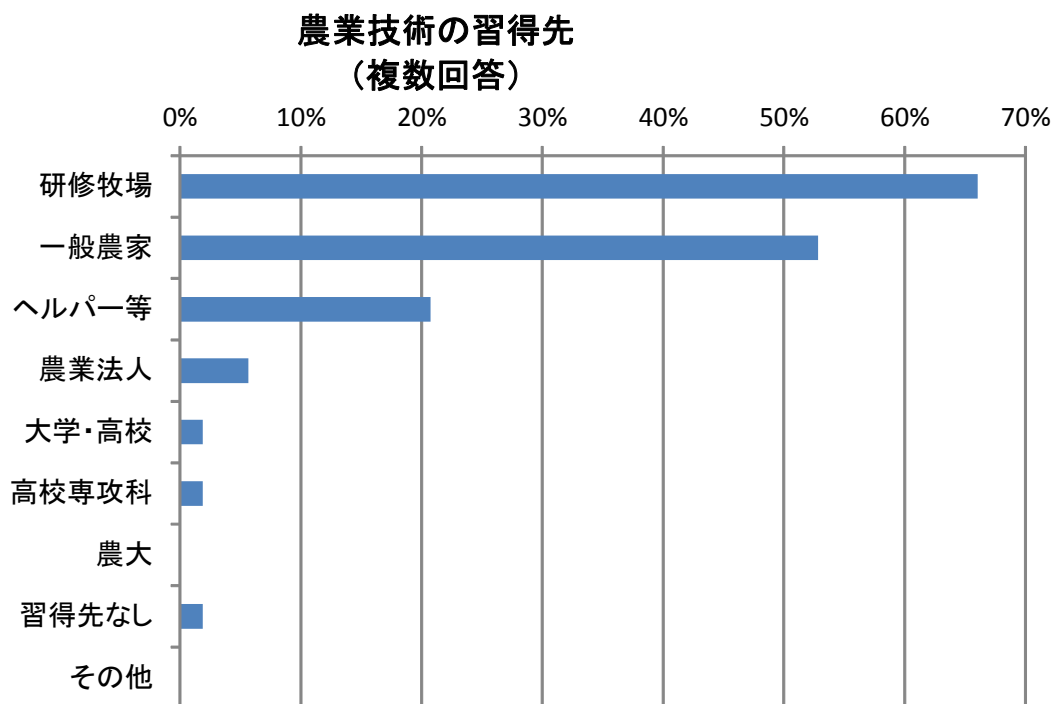
- ・経営技術を学ぶのに色々な人脈を作るのが大変だった。
- ・自由な時間が少なく、買い物等の時間がない。

(10) 農業技術の習得先

就農・就業する際の農業技術の習得先は、「研修牧場」が最も多く66%を占めている。研修牧場は根釧地域における農外からの新規就農者に対し、大きく貢献している事が伺える。次いで「一般農家」が53%、「ヘルパー等」21%となっている。

表31 農業技術の習得先（複数回答）

	釧路	根室	計	割合
研修牧場	6	29	35	66%
一般農家	7	21	28	53%
ヘルパー等	5	6	11	21%
農業法人	0	3	3	6%
大学・高校	0	1	1	2%
高校専攻科	0	1	1	2%
農大	0	0	0	0%
習得先なし	0	1	1	2%
その他	0	0	0	0%



(11) 実際に受けた研修と有益と思われる研修

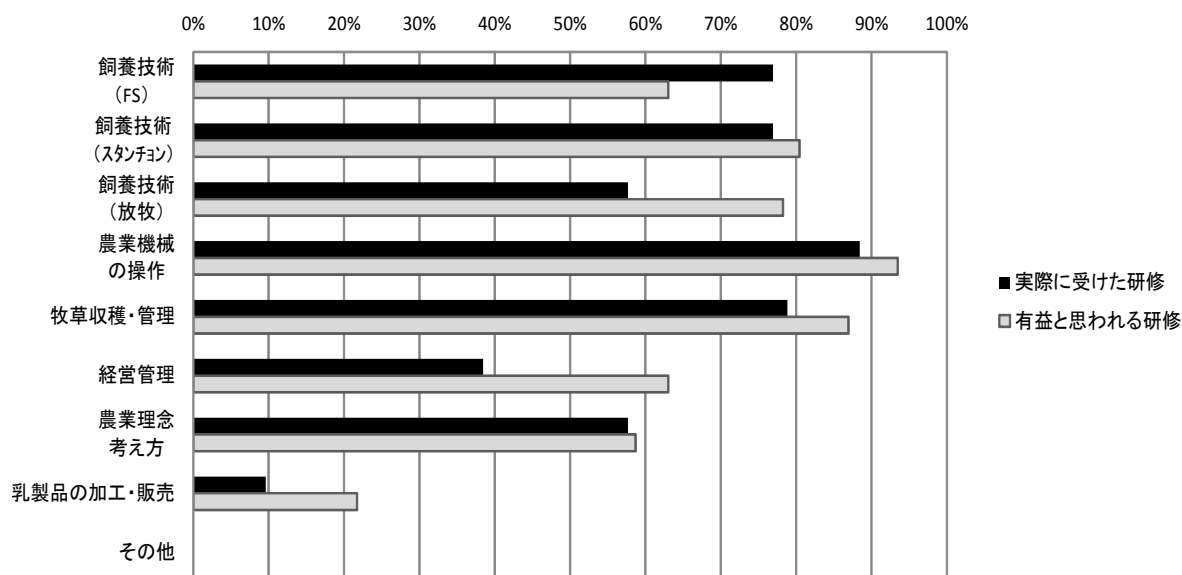
実際に受けた技術習得・研修内容は、FSやスタンション等などの「飼養管理技術」はもちろんのこと、「農業機械の操作」「牧草収穫・管理」「経営管理」など酪農の基本的技術の研修を受けている者が多い。

有益と思われる研修についても概ね同様の傾向が見られたが、実際に受けた研修との比較では「経営管理」が顕著に多い傾向が見られた。

表32 実際に受けた研修と有益と思われる研修(複数回答)

	実際に受けた研修				有益と思われる研修			
	釧路	根室	計	割合	釧路	根室	計	割合
飼養技術(FS)	7	33	40	77%	3	26	29	63%
飼養技術(スタンション)	8	32	40	77%	5	32	37	80%
飼養技術(放牧)	9	21	30	58%	5	31	36	78%
農業機械の操作	9	37	46	88%	7	36	43	93%
牧草収穫・管理	8	33	41	79%	5	35	40	87%
経営管理	5	15	20	38%	2	27	29	63%
農業理念考え方	4	26	30	58%	1	26	27	59%
乳製品の加工・販売	2	3	5	10%	0	10	10	22%
その他	0	0	0	0%	0	0	0	0%

実際に受けた研修と有益と思われる研修(複数回答)



(12) 就農時に要した費用

就農する際に要したおおよその費用は、「機械施設・牛等の取得費用」の平均が約5,000万円で最高額は10,000万円と多額の費用を必要としている。

「農地の取得」は、平均で約2,700万円、「就農後1年間の運転資金は」平均で約1,000万円であった。

なお、補助金により自己資金の軽減が図られているが、それでも借入金額が高い傾向が見られることから、早期での経営安定に向けた取り組みが必要と考えられる。

表33 就農時に要した費用 (単位: 万円)

	機械施設・牛等の取得費用				農地の取得				就農後1年間の運転資金			
	費用合計	うち自己資金	うち補助金	うち借入金	費用合計	うち自己資金	うち補助金	うち借入金	費用合計	うち自己資金	うち補助金	うち借入金
平均	5,002	1,439	1,959	3,528	2,701	480	655	2,557	1,005	374	676	655
最大	10,000	3,461	4,000	8,500	6,000	900	1,250	4,500	5,768	1,540	1,260	2,000
最小	586	293	293	500	120	60	60	200	100	70	400	200

注1) 回答のあった者の数値

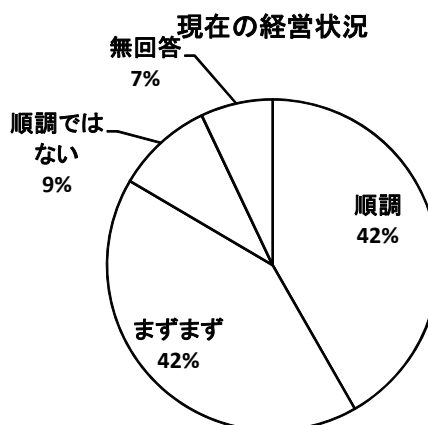
注2) 各項目を単純平均したもののため、合計金額と一致しない

(13) 現在の経営状況

「順調」と「まずまず」がそれぞれ約40%であり、経営状況が悪いとの回答は少数であった。

表34 現在の経営状況

	釧路	根室	計	割合
順調	7	15	22	42%
まずまず	2	20	22	42%
順調ではない	2	3	5	9%
無回答	0	4	4	7%



(14) 就農前と現在の収入や休み等の比較

収入は「増えた」が半数近くの47%であり、「減った」は30%であった。

労働時間は58%が「増えた」と回答し、また、休暇は85%が「減った」と回答している。

一方で「家族との時間」は68%が「増えた」となっており、家族との時間が長い結果となり、多くの新規参入者が求める家族との時間(3-(3))が実現している結果となった。

表35-1 収入

	釧路	根室	計	割合
増えた	7	18	25	47%
変わらない	3	7	10	19%
減った	1	15	16	30%
無回答	0	2	2	4%

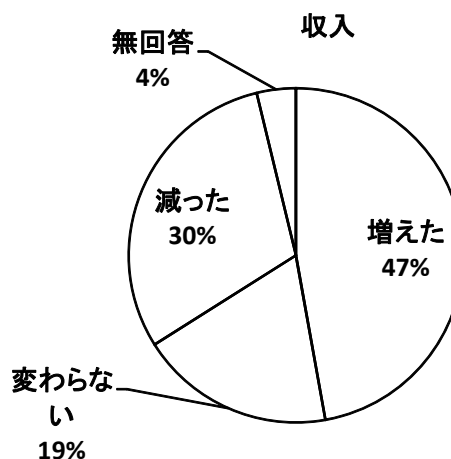


表35-2 労働時間

	釧路	根室	計	割合
増えた	6	25	31	58%
変わらない	2	6	8	15%
減った	3	9	12	23%
無回答	0	2	2	4%

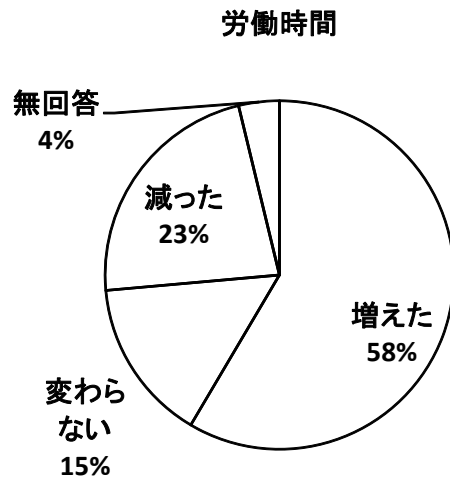


表35-3 休暇

	釧路	根室	計	割合
増えた	0	2	2	4%
変わらない	1	3	4	8%
減った	10	35	45	85%
無回答	0	2	2	4%

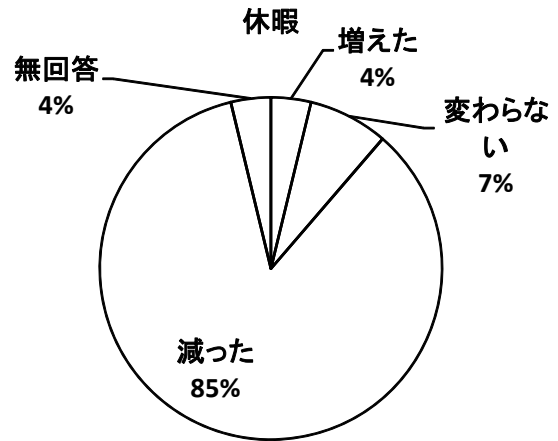
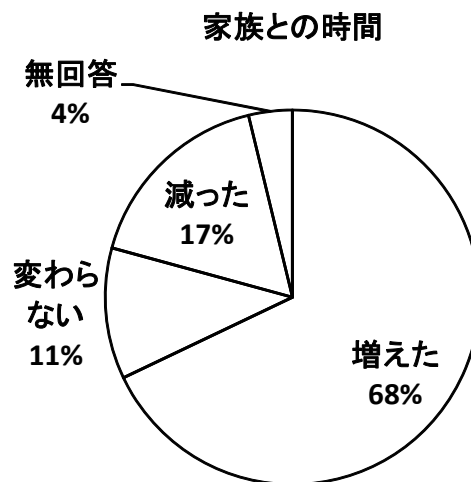


表35-4 家族との時間

	釧路	根室	計	割合
増えた	9	27	36	68%
変わらない	1	5	6	11%
減った	1	8	9	17%
無回答	0	2	2	4%

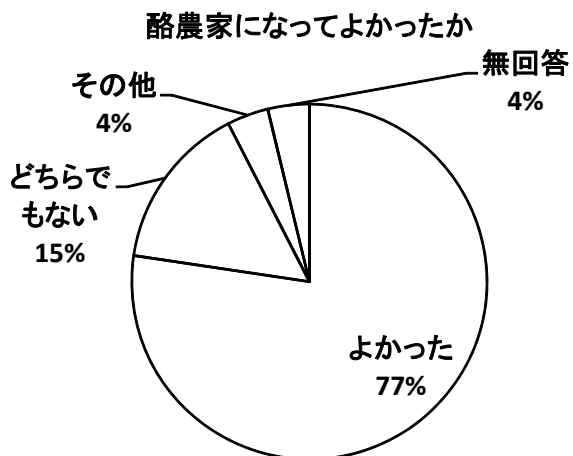


(15) 酪農家になってよかったか

「よかった」と回答した割合が77%、一方「よくなかった」はゼロであり、ほとんどの新規参入者は酪農家になって満足しているという結果となった。

表36 酪農家になってよかったか

	釧路	根室	計	割合
よかった	9	32	41	77%
どちらでもない	2	6	8	15%
よくなかった	0	0	0	0%
その他	0	2	2	4%
無回答	0	2	2	4%



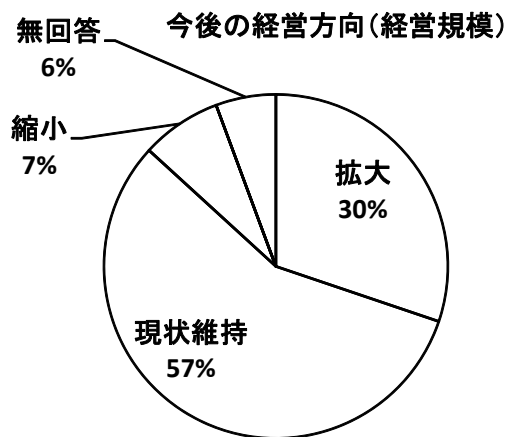
(16) 今後の経営方向

① 経営規模

経営規模の方向は「現状維持」が過半数を占め57%、「拡大」は30%とやや少なく、後継者に比べ、規模拡大志向の者は少ない結果となった。

表37 今後の経営方向(経営規模)

	釧路	根室	計	割合
拡大	5	11	16	30%
現状維持	5	25	30	57%
縮小	1	3	4	7%
複数戸法人	0	0	0	0%
無回答	0	3	3	6%

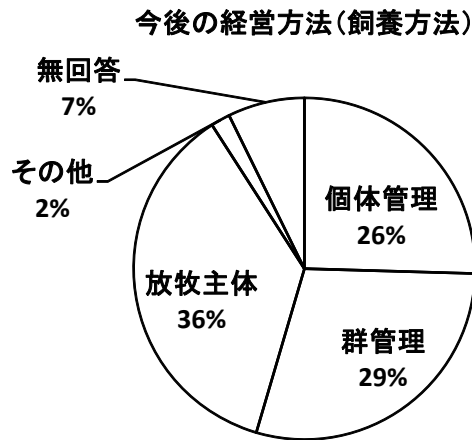


② 飼養方法

飼養方法は「放牧主体」が36%と最も多く、次いで「群管理(フリーストール)」29%と続き、「**個体管理(スタンション等)**」は26%と少なかった。

表38 今後の経営方向(飼養方法)

	釧路	根室	計	割合
個体管理	5	9	14	26%
群管理	2	14	16	29%
放牧主体	3	17	20	36%
その他	1	0	1	2%
無回答	2	2	4	7%



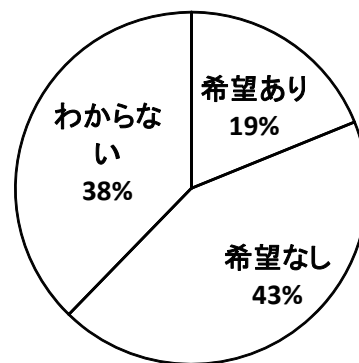
③ 6次産業化

「希望なし」が半数近くの43%、「希望あり」は19%であり、後継者に比べ6次産業化を志向する割合が高い結果となった。

表39 今後の経営方向(6次産業化)

	釧路	根室	計	割合
希望あり	1	9	10	19%
希望なし	9	14	23	43%
わからない	1	19	20	38%
無回答	0	0	0	0%

今後の経営方向(6次産業化)



(17) 新規参入者が増加するための課題

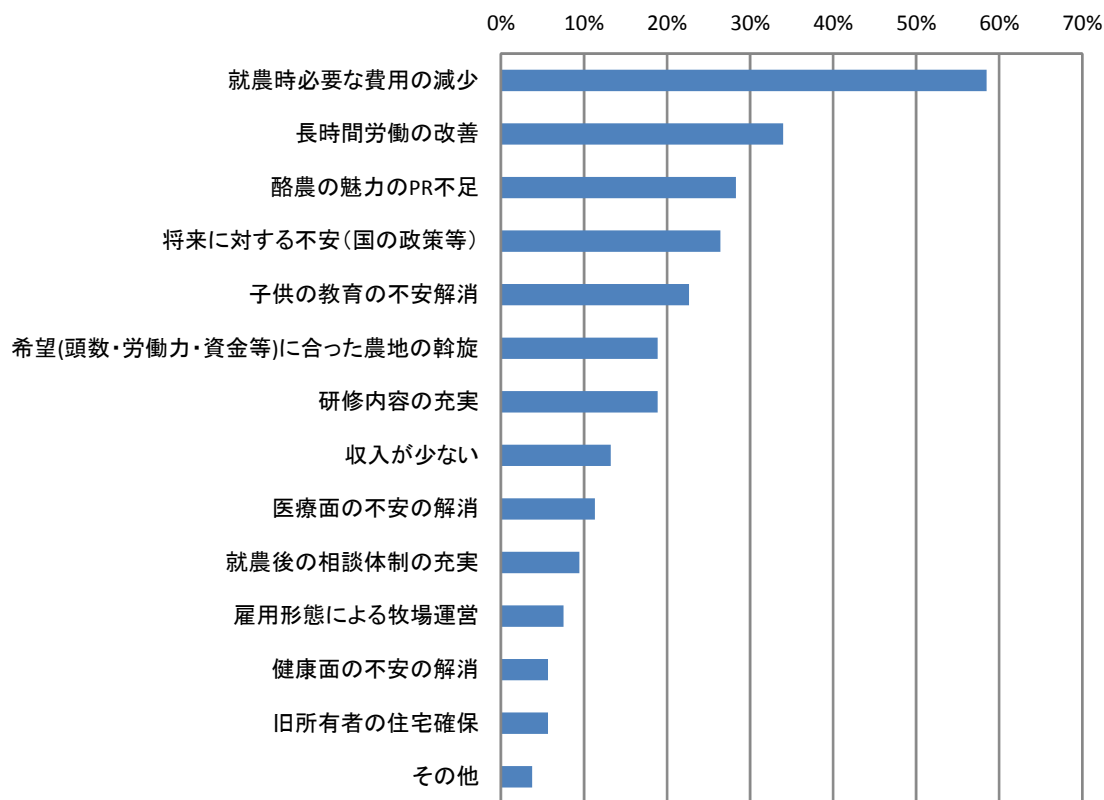
課題と思われる上位3番目までの選択で集計したところ、「就農時必要な費用の減少」が58%、「長時間労働の改善」が34%、「酪農の魅力のPR不足」が28%、「将来に対する不安(国の施策等)」が26%、「子供の教育の不安解消」23%と続いた。

表40 新規参入者が増加するための課題(複数回答)

	釧路	根室	計	割合
就農時必要な費用の減少	6	25	31	58%
長時間労働の改善	2	16	18	34%
酪農の魅力のPR不足	4	11	15	28%
将来に対する不安(国の政策等)	2	12	14	26%
子供の教育の不安解消	3	9	12	23%
希望(頭数・労働力・資金等)に合った農地の斡旋	3	7	10	19%
研修内容の充実	2	8	10	19%
収入が少ない	3	4	7	13%
医療面の不安の解消	1	5	6	11%
就農後の相談体制の充実	1	4	5	9%
雇用形態による牧場運営	1	3	4	8%
健康面の不安の解消	0	3	3	6%
旧所有者の住宅確保	2	1	3	6%
その他	0	2	2	4%

※上位3番目までの選択数で集計

新規参入者が増加するための課題(複数回答)



(18) 新規参入者の増加のための意見(自由記載)

新規参入者の増加のための自由意見の記載内容は次のとおりである。

酪農の魅力のPR

- ・ 職業を選択する際に、選択肢として酪農が入ってくるように努力する。
- ・ 酪農はもうかることをアピールをすればいいと思う。
- ・ 離農が多いのであれば、宣伝なりしていけばいいのではないかと思う。
- ・ どのような生活スタイルになるのかのモデルが少ないので、参入しづらいと思う。実際の参入者に話を聞いたり、訪問できるような体制も必要だと思う。
- ・ 具体的に就農するときの費用等、例を用いて金額を提示し、借金が多くても返済可能だと言うことをアピールした方が良くと思う。

農場条件の向上

- ・ 今は昔と違い、SNSなどで色々な町村の就農、就業の情報が入手でき、比較的簡単に希望の土地に来ることができるが、実際に就農となると、土地が少ない、旧所有者が住宅に住んでいるなどの事情でなかなか就農できない所もある。離農から新規就農をスムーズにできれば、自然と参入者は増加するのではないかと思う。

景観の改善

- ・ 北海道、特に道東における酪農地帯の景観は世界から見てひどい。
(農家の庭先が汚い、臭い、機械が出しっぱなし、草生え放題。その辺の環境整備をすべき。)

経営環境の改善

- ・ 増加目的よりも企業、外資を含め参入しやすい環境作り。

就農前研修の充実等

- ・ 大型免許取得など、男女別での研修内容ではなく、男女同じにして欲しい。でないと、夫婦のうちどちらかがケガ、病気になったとき経営が回らなくなる。
- ・ 公的な施設としての研修牧場や農大だけでなく、民間の専門学校ももっとあれば良い。
- ・ 仕事中、子供を見てくれるような所があれば小さな子供を持った人も安心なのではないか。女の人も機械の運転や免許取得(希望者だけでも)。

酪農への新規就農・就業等に関する実態調査（担い手アンケート）要領

1 調査目的

根釧地域では農家子弟の新規学卒者やUターン就農者が減少傾向にあり、現状の農外からの新規参入者を加えても、離農による農家戸数の減少に歯止めがきかない状況となっている。また、担い手の減少が生乳生産の停滞など地域の酪農経営全体に悪影響を及ぼす大きな要因にもなっている。

このため、農家子弟や新規参入者等の意向等を把握し、その結果を分析・考察することにより、今後、関係機関・団体において新規就農者の受入・定着と後継者の育成を促進するための方策の検討を進めていく。

2 調査対象（調査票の種類）

（1）農業後継者等

農家子弟等であって、15歳以上の農業従事していない者または就農（農業従事）後おおむね10年以内の者。

（2）新規参入者（研修生を含む）

農外から、おおむね10年以内に新規就農・就業した者。

3 調査内容

別添調査票のとおり

4 調査手法

振興局より各JAへ調査票を配付し、各JAは調査対象農家に調査票を配付・回収する。

なお、配付・回収方法は各JAに任せるものとし、回答する農家等が振興局に対して直接FAX等で回答することも可能とする（調査票に振興局のFAX番号を明記）。

5 調査期間

平成27年11月（調査票配付時）～平成27年12月22日（調査票回収期限）

※ JAは回収した調査票を振興局へ12月30日までに提出

6 調査結果の活用

調査票を集計し、内容を分析・考察した後、各市町村・JA等を集計表を提供するとともに、各種会議等での活用や今後の効果的な新規就農者対策の検討資料とする。

酪農への新規就農・就業に関する調査票

調査者 釧路総合振興局・根室振興局

平成27年12月22日までに返送してください

この調査は、根釧地域の市町村・JAなどが協力して酪農の担い手の確保に取り組んでいくにあたり、農業後継者等の実態と、効果的な新規就農者の確保に向けた取組を行っていくための参考資料とするため、**15歳以上の農家子弟及び親元での新規就農者でおおむね10年以内の方を対象**に調査を実施するものです。この調査票の取扱いについては、釧路総合振興局・根室振興局において万全を期し、個人の秘密を厳守します。お答えの内容は集計の上、市町村・JA・関係農業団体に対し農業後継者の実態及び意見をお知らせするほか、新規就農者確保に向けた取組以外には使用しません。また、記述項目の回答については、記述者が特定されないよう配慮しますので、ご協力をお願いします。

現在の住所	市・町・村	年 齢	～10代・20代・30代・40代～
所属農協名	農 協	性 別	男 ・ 女

【経営規模】

1. 現在の経営規模（又は実家の経営規模）を教えてください。※おおむねで結構です

農地面積	ha
搾乳牛頭数(年平均)	頭
生乳生産量(年間)	t

2. あなたの酪農への就農状況を教えてください。（○で囲んで下さい）

- ・就農（農業従事）している ⇨ 【問9（3P目）から回答願います。】
- ・就農（農業従事）していない

↓ 【以下、引き続き回答願います。】

《就農（農業従事）していない方へ》

3. 現在の職業等を教えてください。（一番近いものを○で囲んで下さい）

会社員 ・ 公務員、団体職員 ・ 農業関連会社、団体 ・ アルバイト ・ 学生 ・ 無職 ・ その他（ ）

4. ご実家の農業(酪農)を手伝っていますか？

毎 日 ・ 週数回 ・ 月数回程度 ・ ほとんど手伝いはしない

【就農希望】

5. 将来、就農を希望されているか教えてください。（一番近いものに○をして下さい）

農業後継者になることを考えている	
兄弟姉妹等と共同経営しようと考えている	
他の場所で農業(酪農)を始めたいと考えている	
他に農業後継者がいるので、他の職業を考えている	
農業(酪農)を行う予定はない	
未定・迷っている	

⇨⇨ 【問8へ】

6. 就農を希望されている場合、その理由を教えてください。(あてはまるものに○をして下さい(複数回答)) ※就農を希望されていない場合等は、問8以降へ

酪農を継ぐと決めているから	
親に勧められている	
農業(酪農)が好きだから	
自然や動物が好きで農村の生活が好きだから	
食物の品質や安全性に興味があるから	
家族と一緒に仕事ができるから	
時間が自由だから	
子どもを育てる環境が良いから	
自ら経営の采配を振れ、努力の成果が見えるから	
農業(酪農)はやり方次第でもうかるから	
サラリーマンに向いていないので	
都会の生活が嫌	
配偶者・子供に勧められている	
なんとなく	
ほかに仕事がない	
その他(自由記載欄)	

7. 農業を希望されている場合、今後はどのような経営をしていきたいですか？
(あてはまるものを○で囲んで下さい)

経営規模	拡大・現状維持・縮小・複数戸法人
飼養方法の変更を考えているかどうか	現状のまま・搾乳ユニット自動搬送装置導入・フリーストール化・搾乳ロボット導入・放牧主体・その他()
6次産業化	希望あり・希望なし・分からない

8. 就農しない又は就農未定等の場合、その理由を教えてください。(あてはまるものを○で記入して下さい(複数回答)) ※就農を希望されている場合は、記載不要です。

他にやりたい職業があるから	
親から他の職業につくよう言われている (その理由は:)	
農業(酪農)が好きではないから (好きでない理由は:)	
動物が好きではないから	
配偶者を見つけるのが大変だから (大変な理由は:)	

子どもを育てる環境が良くないから (どのような環境なら良いですか：)	
将来が不安(見通せない)から (不安な理由は：)	
農業(酪農)はもうからないから	
労働時間が長い・休暇が少ないから	
都会に住みたいから	
友人・知人が農業(酪農)を継がないから	
配偶者・子供が反対 (反対の理由は：)	
なんとなく	
その他(自由記載欄)	

【最後に問17以降へ進んでください。】

《就農(農業従事)している方へ》

【就農動機】

9. 就農する前の職業を教えてください。(一番近いものを○で囲んで下さい)

学生(高校、大学、専門学校等) ・ 会社員 ・ 公務員、団体職員 ・ 農業 関連会社、団体 ・ 自営業 ・ アルバイト、パート ・ その他()

10. 就農した理由を教えてください。(あてはまるものに○をして下さい(複数回答))

酪農を継ぐと決めていたから	
親に勧められて	
農業(酪農)が好きだから (好きな内容：)	
自然や動物が好きで農村の生活が好きだから	
食物の品質や安全性に興味があった	
家族と一緒に仕事ができるから	
時間が自由だから	
子どもを育てる環境が良いから (良いところ：)	
自ら経営の采配を振れ、努力の成果が見えるから	
農業(酪農)はやり方次第でもうかるから	

サラリーマンに向いていないので	
都会の生活が嫌だから	
配偶者・子供に勧められて	
なんとなく	
ほかに仕事がなかった	
その他（自由記載欄）	

【就農までの道のり】

11. 就農するにあたって、農業技術を習得した先を教えてください。（あてはまるものを○で囲んで下さい(複数回答)）

実家 ・ その他農家 ・ 農業法人 ・ 研修牧場 ・ 農業大学校 ・ ヘルパー等 ・ 大学、高校 ・ その他（ ） ・ 習得先はない

12. 実際に受けた農業技術習得の研修内容と、有益と思われる農業技術習得の研修内容を教えてください。（あてはまるものに○をして下さい(複数回答)）

	実際に受けた研修内容	有益と思われる研修内容
飼養技術（フリーストール）		
飼養技術（スタンション）		
飼養技術（放牧）		
農業機械の操作		
牧草収穫・管理		
経営管理		
農業理念・考え方		
乳製品の加工・販売		
その他		

【経営】

13. 現在、酪農経営は順調ですか？（あてはまるものを○で囲んで下さい）

順 調 ・ ますます ・ 順調ではない

14. 酪農家になる前と比べて、収入や休みなどはどう変化しましたか？
（あてはまるものを○で囲んで下さい）

収 入	増えた ・ 変わらない ・ 減った
労働時間	増えた ・ 変わらない ・ 減った
休 暇	増えた ・ 変わらない ・ 減った
家族との時間	増えた ・ 変わらない ・ 減った ・ 独身

酪農への新規就農・就業に関する調査票

調査者 釧路総合振興局・根室振興局

平成27年12月22日までに返送してください

この調査は、根釧地域の市町村・JAなどが協力して酪農の担い手の確保に取り組んでいくにあたり、新規就農・就業の実態と、効果的な新規就農者の確保に向けた取組を行っていくための参考資料とするため主に農外から、おおむね10年以内に新規に就農・就業された方を対象に調査を実施するものです。この調査票の取扱いについては、釧路総合振興局・根室振興局において万全を期し、個人の秘密を厳守します。お答えの内容は集計の上、市町村・JA・関係農業団体に対し新規就農者の実態及び意見をお知らせするほか、新規就農者確保に向けた取組以外には使用しません。また、記述項目の回答については、記述者が特定されないよう配慮しますので、ご協力をお願いします。

現在の住所	市・町・村	年 齢	～10代・20代・30代・40代～
所属農協名	農 協	就農(業)年	平成 年
性 別	男 ・ 女	出 身 地	現在と同じ ・ 都・道・府・県

【経営規模等】

1. 現在の就農等の形態及び経営規模等を教えてください。

〔就農・就業形態：○で囲んでください〕

〔経営規模等〕 ※研修生及び就業者は記入不要

新規就農（自営独立・法人構成員）	農地面積	ha
新規就業（農業法人・酪農ヘルパー・研修生）	搾乳牛頭数（年平均）	頭
	生乳生産量	t

【就農等の動機】

2. 就農・就業（研修）する前の職業を教えてください。（一番近いものを○で囲んで下さい）

会社員 ・ 公務員、団体職員 ・ 農業従事者 ・ 農業関連会社、団体 ・ 自営業 ・ アルバイト、パート ・ 学生 ・ 無職 ・ その他（ ）

3. 就農・就業（研修）した理由を教えてください。（あてはまるものに○をして下さい(複数回答)）

自然・環境	農業(酪農)が好きだから	
	自然や動物が好きだから	
	農村の生活が好きだから	
安全・健康	食物の品質や安全性に興味があった	
家族・ゆとり	家族と一緒に仕事ができるから	
	時間が自由だから	
	子どもを育てる環境が良いから	
経営努力	自ら経営の采配を振れるから	
	努力の成果が直接見えるから	
	農業(酪農)はやり方次第でもうかるから	
	以前の仕事の技術を生かしたいから	
現状に不満	サラリーマンに向いていないので	
	都会の生活が嫌になったから	
その他（自由記載欄）		

【新規就農・就業（研修）までの道のり】

4. 新たに酪農を始めることを決意し、就農・就業前の研修等を行うために移住するまで、または、実際に移住するまで何年かかりましたか教えてください。

酪農を始めることを決意し就農・就業前の研修等を行うために移住するまで	年
農業(酪農)を始めることを決意し実際に就農・就業予定地に移住するまで	年

5. 就農・就業等をした場所(市町村もしくは地域)は、当初に希望していた場所でしたか？

就農・就業した場所(市町村もしくは地域)は当初に希望していた場所と	同じ ・ 違う ・ 特定の希望はなかった
違う場合、よろしければ当初に希望していた市町村(もしくは地域)を教えてください	(任意)

6. 今の場所に就農・就業（研修）を決めた一番の理由を教えてください。（自由記載）

--

7. 新規就農・就業（研修）するにあたり、それぞれの項目ごとに調べた情報源を教えてください。（あてはまるものに○をして下さい(複数回答)）

	就農等場所	技術の習得	農地の確保	住宅の確保	資金の確保
全国段階の相談窓口					
北海道の相談窓口					
農業改良普及センター					
市町村・農業委員会					
JA（農協）					
研修の受け入れ先					
一般農家・農業法人					
書籍・雑誌					
インターネット					
その他（ ）					

8. 就農・就業（研修）するにあたって苦労したことを教えてください。（苦労した順番に1から最大8まで番号を記入してください。）

項 目	1から最大8まで	項 目	1から最大8まで
相談窓口探し		営農技術の習得	
家族の了解		農地の確保	
就農場所の選択		資金の確保	
その他（自由記載）		住宅の確保	

15. 酪農家等になってよかったと思いますか？（あてはまるものを○で囲んで下さい）

よかった ・ どちらでもない ・ よくなかった ・ その他（ ）
--

16. 今後はどのような経営をしていきたいですか？（就業・研修中の方は就農するとした場合）
（あてはまるものを○で囲んで下さい）

経営規模	拡大 ・ 現状維持 ・ 縮小 ・ 複数戸法人
飼養方法	スタンション ・ フリーストール ・ 搾乳ロボット導入 ・ 放牧主体 ・ その他（ ）
6次産業化	希望あり ・ 希望なし ・ 分からない

【その他】

17. 新規就農・就業者が増加するための課題は、こういったところにあると思われますか？
（課題と思われる順番に1から最大8まで番号を記入してください。）

項目	1から最大8まで	項目	1から最大8まで
就農時必要な費用の減少		長時間労働の改善	
規模に合った農地の斡旋		雇用形態による牧場運営	
酪農の魅力のPR不足		収入が少ない	
医療面の不安の解消		研修内容の充実	
健康面の不安の解消 （ケガ等への対応）		将来に対する不安の解消 （国の政策の安定）	
子供の教育の不安解消		就農後の相談体制の充実	
その他（自由記載）		旧所有者の住宅の確保	

18. そのほか、新規参入者の増加のため意見ございましたらお願いします（自由記載）

--

ありがとうございました。